

東海テレビ放送
『さよならテレビ』

Tokai Television Broadcasting
Sayonara TV
◎9.22[Sun] 14:30※ ◎9.25[Wed] 13:30 ◎9.28[Sat] 11:00
2018 / 77 min
言語:日本語 Language: Japanese
字幕:英語 Subtitles: English

2018年に東海テレビローカルで放送されたドキュメンタリーだが、全国の映像制作者たちから大きな反響を生んだ東海テレビ開局60周年記念番組。東海テレビ報道部に、自社のドキュメンタリー班が密着取材。視聴率とジャーナリズム、労働と人間関係、そして過去の放送事故など、テレビ報道の生々しい現場を、カメラが赤裸々に映し出す。テレビ局の顔であるアナウンサー、ベテランの外部スタッフ記者、若き契約社員に焦点を置き、放送現場に随伴し日々起きていることを記録してゆく。随所に「演出」を感じさせるこの番組は、どこまでが事実で、どこからが演出なのか、見る側のリテラシーを問い直す。



吉開菜央
『Grand Bouquet』

YOSHIGAI Nao
Grand Bouquet
◎8.9[Fri] 21:00※ ◎9.15[Sun] 16:30※
◎9.16[Mon] 11:00/11:20/11:40
◎9.23[Mon] 15:00/15:20/15:40
◎9.28[Sat] 15:30/15:50/16:10
2019 / 15min

自分よりも遙かに巨大な力を持つ「黒い魂」の前に言葉が紡ごうとする一人の女の物語。女は伝えたい気持ちを言葉にすることが出来ず、変わりに口から美しい花を吐き出す。本作は、世界的な潮流となった#MeTooなど、個人の告発が世論を動かす昨今の風潮にも影響を受けている。音響や触覚的表現にもこだわったが、一部の表現について刺激が強すぎるという理由で、美術館の意向のもと約50秒が黒塗りして公開されたことで、現在も物議を醸している。



富田克也
『典座 -TENZO-』

TOMITA Katsuya
TENZO
◎8.9[Fri] 21:00※ ◎9.17[Tue] 13:30※
2019 / 62 min / 配給:空族
言語:日本語 Language: Japanese
字幕:英語 Subtitles: English

富士山の裾野、山梨の寺院に住まい、重度の食物アレルギーを抱える3歳の息子をもつ河口智賢(僧名・チケン)と、福島の新設住宅に住まい、瓦礫撤去の作業員として働きながら本堂再建を諦めきれずにいる倉島隆行(僧名・リュウギョウ)の二人の青年僧侶を主人公に置く。災害が頻発し、生きる意味の拠り所が揺らぐ現代日本において、宗教はいかなる役割を見いだすことができるのか。本作は映像制作集団・空族が、全国曹洞宗青年会からの依頼により制作。僧侶自身出演し、フィクションとドキュメンタリーが混交した中編映画。道元禪師が遺した「典座教訓」を軸に、現代において信仰とはいかなる意味を持ち得るのかという問いに正面から向き合う。



日本初上映

日本初上映

特別オールナイト上映
会場:ミッドランドスクエア シネマ(スクリーン9)

料金:前売・当日ともに2,000円/プレミアムシート2,800円/あいちトリエンナーレ2019国際現代美術展[1Day/バス][フリーパス]ではご入場いただけません

8月9日(金) 21:00 - 翌6:00 (予定)

◎日本初上映となる2作品を先行上映

吉開菜央『Grand Bouquet』
富田克也『典座 -TENZO-』
*吉開菜央監督、富田克也監督来場、Q&A予定。

◎「情の時代」のテーマからセレクトされた現代アメリカ映画3作品をスクリーンで再発見

マイケル・グレイシー『グレイテスト・ショーマン』(2017)
アニーシュ・チャガンティ『search/サーチ』(2018)
ドゥニ・ヴィルヌーヴ『メッセージ』(2016)

Special All Night Screening

Venue: Midland Square Cinema, Screen 9
Date: August 9 [Fri] 21:00- 6:00

YOSHIGAI Nao, *Grand Bouquet*
TOMITA Katsuya, *TENZO*
Michael GRACEY, *The Greatest Showman*
Aneesh CHAGANTY, *Searching*
Denis VILLENEUVE, *Arrival*

TIME TABLE

9.15 [Sun]
11:00 コンゴ裁判 *The Congo Tribunal*
14:00 空に聞く *Listening to the Air* +[トーク]小森はるか(監督)、津田大介(あいちトリエンナーレ2019芸術監督)
16:30 Grand Bouquet +[トーク]吉開菜央(監督)、津田大介

9.16 [Mon / public holiday]
11:00/11:20/11:40 Grand Bouquet
13:30 ウロボロス *Ouroboros*
17:30 ホドロフスキーのサイコマジック *Psychomagic: A Healing Art* +[トーク]岡村靖幸(音楽家)、津田大介

9.17 [Tue]
13:30 典座 -TENZO- +[トーク]富田克也(監督)、青山俊董(愛知専門尼僧堂堂長/出演)、河口智賢(主演)、津田大介
16:30 ウロボロス *Ouroboros*

9.18 [Wed]
13:30 共犯者たち *Criminal Conspiracy*
16:00 デトロイト *Detroit*

9.19 [Thu]
13:30 民族の祭典 *Olympia Part One: Festival of Nations*
16:30 美の祭典 *Olympia Part Two: Festival of Beauty*

9.20 [Fri]
17:00 ホドロフスキーのサイコマジック *Psychomagic: A Healing Art*

9.21 [Sat]
11:00 空に聞く *Listening to the Air*

会期/会場/チケット

《9月15日(日) - 29日(日)》映像プログラム
会場:愛知芸術文化センター12F アートスペースA [名古屋市東区東桜1-13-2]
[あいちトリエンナーレ2019国際現代美術展チケットでご鑑賞いただけます]
◎各回15分前開場・入場整理番号順でのご入場/上映開始後入場不可(「A Day in the Aichi(仮)」は途中入場可能)/180席/全席自由
◎国際現代美術展「1DAY/バス」「フリーパス」にてご入場いただけます。愛知芸術文化センター(12階)アートスペースA会場受付にてご提示ください。「1DAY/バス」は当日のスタンプが押された日のみ有効。複数日にわたりご覧いただく場合は「フリーパス」が必要になります。
◎上映日ごとに、その日最初の上映の30分前から愛知芸術文化センター12階受付にて全ての上映の入場整理券を配布いたします。満席の際はご入場いただけません場合があります。

《10月8日(火)、9日(火)》「A Day in the Aichi」の上映について
会場:シネマスコール [名古屋市市中区椿町8-12 アートビル1F]
両日ともに17:00からシネマスコール劇場窓口にて受付/入場整理券の配布開始(整理番号順でのご入場)/各回70席/全席自由
◎国際現代美術展「1DAY/バス」「フリーパス」にてご入場いただけます。当日券はシネマスコール劇場窓口にて「1DAY/バス」に限り販売します。
◎「1DAY/バス」は、当日のスタンプが押されたもの、もしくはスタンプが押されていないもののみが有効。
◎満席の際はご入場いただけません場合がございます。

お問い合わせ あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内
TEL 052-971-6111 (10:00-17:00 土日祝休み *会期中無休) FAX 052-971-6115 公式Webサイト <http://aichitriennale.jp/>

あいちトリエンナーレ2019 情の時代

2019年8月1日(木) - 10月14日(月・祝)
August 1 (Thursday) to October 14 (Monday, public holiday), 2019
[主な会場] 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間通・円頓寺)、豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺)
[芸術監督] 津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)
[主催] あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
[協賛] 文化庁、一般財団法人地域創造、振保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会2021 Arts Fund)

Film Program

August 9 [Fri / Special All Night Screening]

Midland Square Cinema, Screen 9

September 15 [Sun] to 29 [Sun]

Aichi Arts Center, Art Space A (12F)

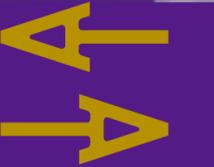


映像プログラム

8月9日(金) [特別オールナイト上映]
ミッドランドスクエア シネマ(スクリーン9)

9月15日(日)~29日(日)
愛知芸術文化センター12F アートスペースA

情の時代



あいちトリエンナーレ2019
AICHI TRIENNALE 2019: Taming Y/Our Passion

©Pascale Montandon-Jodorowsky

<http://aichitriennale.jp>

映画・映像作品15作品+先行オールナイトイベントで「情の時代」を見つめる

あいちトリエンナーレ2019の映像プログラムでは、実験的作品から映画作品まで独自のナラティブ(物語性)を持つ映画・映像作品を上映します
※ゲストトーク予定

バスマ・アルシャリフ

『ウロボロス』

Basma ALSHARIF
Ouroboros

◎9.16[Mon] 13:30 ◎9.17[Tue] 16:30

2017 / 77 min / 協力:東京都写真美術館 / 恵比寿映像祭
言語:英語, チヌーク語, イタリア語 Language: English, Chinook, Italian
字幕:英語, 日本語 Subtitles: English, Japanese

ウロボロスは、尾を飲み込み環の形になった蛇で、死と復活を象徴する。パレスチナのガザ地区から始まる本作で、男は、アメリカのLAとモハーヴェ砂漠、イタリアの古都マテーラとマルティナ・フランカ、フランスのブルターニュにそびえる13世紀の城を渡り歩く。男が繰り返す出会いと別れ、忘却のサイクルは、ガザにおける破壊と再生の歴史に重なる。進む時間と後戻りする時間、爆撃され荒廃する土地と何世紀にもわたって維持された街並みが対比される。ガザを巡る膨大な情報や、わかりやすい言語に抵抗を示す彼女は、一つの観点からは判断できない、不合理に思えるような歴史を、知識としてではなく臓器で感受する経験として、観客に提供する。



Outdoors Film Still, 2017. Courtesy of the Artist and Galerie Inne Fates.

キャスリン・ビッグロー

『デトロイト』

Kathryn BIGELOW
Detroit

◎9.18[Wed] 16:00 ◎9.26[Thu] 17:00

2017 / 142 min / 配給:ロングライド
言語:英語 Language: English
字幕:日本語 Subtitles: Japanese

1967年のある日、アフリカ系退役軍人の功績を讃える式典の裏で、デトロイト警察が違法酒場の摘発を行った。警官隊への投石はやがて巨大な暴動へと発展し、その渦中に「アルジェ・モーター事件」が発生する。暴動発生から沈静化の目処が立たない3日目の夜、若い黒人客たちで賑わうモーターに、銃声を聞いたとの通報を受けた大勢の警官、州兵が殺到。警官たちは、偶然モーターに居合わせた若者たちへ、暴力的な強制尋問を始める。緊張感の張り詰めた密室空間で、警官たちの一方的な「正義」が発露する背景には、黒人への人種差別があったことは明らかである。群像劇でもある『デトロイト』は、実在した一つの事件を複数の視点から眺める。



© 2017 SHEPARD DOG, LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

チェ・スンホ

『共犯者たち』

CHOI Seung-Ho
Criminal Conspiracy

◎9.18[Wed] 13:30 ◎9.22[Sun] 17:30

2017 / 105 min / 配給:東風
言語:韓国語 Language: Korean
字幕:日本語 Subtitles: Japanese

2008年の米国産牛肉BSE問題に関する報道で、大統領就任直後にもかかわらず窮地に立った韓国李明博(イ・ミョンバク)政権は、主要放送局のKBSやMBCに対し露骨な介入を開始。政権に批判的な番組は排除され、政権が送り込んだ経営陣が懲戒・解雇を遂行。2012年に成立した朴槿恵(パク・クネ)政権も同様の手法を繰り返す。マスメディアは約9年かけて政府に骨抜きにされた。本作は、報道と言論の自由を破壊した「主犯」である大統領以下政権幹部と共に、権力に迎合した放送業界内の「共犯者たち」をあぶり出す。映画の最後には、報道の自由のために闘い、その立場を追われた信じられない数の人々の名前が紹介される。



© KOJI NAKASHIMA

カンパニー松尾

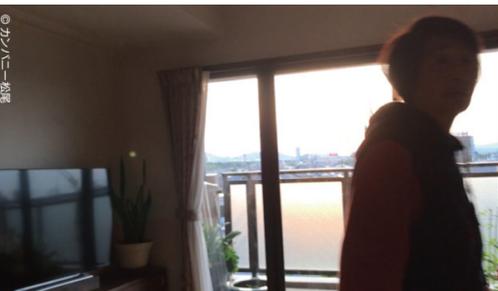
『A Day in the Aichi』

Company Matsuo
A Day in the Aichi

◎9.27[Fri] 13:00※ ◎9.29[Sun] 13:00※ ◎10.8[Tue] 18:30※

◎10.9[Wed] 18:30※
《10.8[Tue]、10.9[Wed]はシネマスコール(名古屋市中村区)での上映となります》
2019 / XX min (TBA) 上映時間未定 言語:日本語 Language: Japanese

22歳から30年あまり、休むことなく「心と体の間にある矛盾」を撮り続けてきたカンパニー松尾。その彼が、ハンディカムを片手に、生まれ育った愛知にゆかりのある人々に対し、一対一でインタビューを繰り返す。有名・無名、老若男女を問わず、雑多で多声的な「愛知像」を集める過程で、撮る側 / 撮られる側の間に生まれる感情を記録していく。松尾は、人間の性分が、善悪で単純に割り切れるものではないと語る。こだわってきたのは、人間味が溢れ、可笑しみと哀しみが入り交じった世界だ。本作は、あいちトリエンナーレ映像プログラムでは初となる新作委嘱作品である。実現には、並々ならぬ議論を重ねられた。



©カンパニー松尾

クレール・ドウニ

『ハイ・ライフ』 [PG12作品]

Claire DENIS
High Life

◎9.24[Tue] 18:00 ◎9.28[Sat] 17:30

2018 / 113 min / 配給:トランスフォーマー
言語:英語 Language: English
字幕:日本語 Subtitles: Japanese

太陽系をはるかに超え、漆黒の宇宙に突き進む一隻の宇宙船「7」。その9人のクルー全員が、死刑や終身刑を告げられた重犯罪者たちである。彼らは、同乗する謎の科学者で医師のディブスの実験に参加することで重い刑罰を免除されたが、それは地球へ帰る保証のない旅だった。重犯罪者と宇宙船という、我々の日常の想像力を越えた設定によって、嫉妬、怒り、欲望など様々な感情の根底が露わになり、究極の密室から逃れられないまま生殖し、子孫を残し、家族を形成する意味が突きつけられる。なお、本作には美術監督として現代美術家のオラファー・エリアソンが参加している。ドウニにとって初のSF映画にして、初の英語作品。



© 2018 PANDORA FILM - ALCAZAR FILMS

広瀬奈々子

『夜明け』

HIROSE Nanako
His Lost Name

◎9.23[Mon] 11:00※ ◎9.24[Tue] 15:30

2019 / 113 min / 配給:マジックアワー
言語:日本語 Language: Japanese
字幕:英語 Subtitles: English

釣りをするため河辺にやってきた哲郎(小林薫)は、水際に倒れていた青年(柳楽優弥)を見つける。一人やもめの哲郎は、シンイチと名乗る青年を介抱し、行く先のない彼と、徐々に擬似的な親子関係を結んでゆく。哲郎は、自身の仕事場である小さな木工所にシンイチの居場所を与えようとするが、シンイチの過去が明らかになってゆく過程で様々な綻びが生じ始める。荒涼とした地方都市を舞台とし、家族や師弟関係といった「絆」のもつ光と闇の両面を照らす本作は、現代日本を蝕む社会および世代的分断を見据えている。他人に救いの手を差し伸べるといふ美談に潜む人間のエゴ、そしてその救いに依存する側の弱さや狡さが、広瀬監督の瑞々しい視点で編まれる。



©2019 夜明け / 製作:老利会

アレハンドロ・ホドロフスキー

『ホドロフスキーのサイコマジック』

Alejandro JODOROWSKY
Psychomagic: A Healing Art

◎9.16[Mon] 17:30※ ◎9.20[Fri] 17:00 ◎9.23[Mon] 17:00

2019 / 100 min / 配給:アップリンク
言語:スペイン語, フランス語, 英語 Language: Spanish, French, English
字幕:英語, 日本語 Subtitles: English, Japanese

アレハンドロ・ホドロフスキー監督最新作として完成した『ホドロフスキーのサイコマジック』は、彼自身が考案した心理療法「サイコマジック」の、実際の診療の様子を紹介する映画体験。過去の監督作品の映像素材も加え、ホドロフスキー映画における数々のシーンが、いかに「サイコマジック」という技法によって貫かれているかが解き明かされてゆく。彼は、自身をプロイトと対置した上で、「サイコマジック」は科学が基礎とされる精神的セラピーではなく、アートとしてのアプローチから生まれたセラピーであると語る。長年にわたり個人のトラウマにตอบสนองする一方、社会的な実践「ソーシャルサイコマジック」を展開する様子も提示する。



©Pascale Montandon-Jodorowsky

小森はるか

『空に聞く』

KOMORI Haruka
Listening to The Air

◎9.15[Sun] 14:00※ ◎9.21[Sat] 11:00 ◎9.28[Sat] 13:30

2018 / 75min
言語:日本語 Language: Japanese
字幕:英語 Subtitles: English

東日本大震災後に各地に設けられた災害FM局のひとつ、陸前高田災害FMでパーソナリティを務めた女性を追ったドキュメンタリー作品。地域に住む多くの人の記憶や思いに触れ、彼らの声をラジオを通じて届ける日々を、カメラは親密な距離で綴ってゆく。津波によって流されてしまった街の復興が着々と進み、嵩上げされた土地に新しい街が造成されてゆく様子が並行して描かれてゆく。人々によって語られることと忘れられてゆくことが、小森の視点で丹念に記録される様からは、映像作家としての真摯な「慰霊」の態度が垣間見える。前作「息の跡」と並行した時期に撮影が行われた本作は、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品第27作として完成した。



小森はるか / 愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品第27作

ミロ・ラウ

『コンゴ裁判』

Milo RAU
The Congo Tribunal

◎9.15[Sun] 11:00

2017 / 105 min / 上映協力:SPAC 静岡県舞台芸術センター
言語:フランス語, 英語, ドイツ語, スワヒリ語, リンガラ語
Language: French, English, German, Swahili, Lingala
字幕:英語, 日本語 Subtitles: English, Japanese

1996年から20年以上コンゴで続く紛争や虐殺は、第二次世界大戦後最大の600万人とも言われる犠牲者を出しながら、忘れられた紛争と表現される。背景には、私たちが手放せない「あるもの」の製造に不可欠な鉱山資源がある。ラウは本作において、紛争の当事者たちに本人役で出演を依頼し、演劇として模擬裁判を行った。被害者としての現地住民、多国籍鉱山探掘会社、州知事、警察を所管する内務大臣、ハーグ国際刑事裁判所の判事や地元弁護士、武装集団、数多の証人の声が重なり、腐敗、癒着、収奪、強奪、抵抗、虐殺、汚染の事実が浮き彫りとなる。演劇とジャーナリズムが交差するこの意欲作によって、大臣二人が罷免された。



©Futurmark / Langfilm

レニ・リーフェンシュタール

『民族の祭典』 「オリンピア」第一部

Leni RIEFENSTAHL
Olympia Part One: Festival of the Nations

◎9.19[Thu] 13:30 ◎9.25[Wed] 15:30

1938 / 138 min
言語:英語 Language: English
字幕:日本語 Subtitles: Japanese

1936年にナチス政権下のドイツで開催された夏季オリンピック、ベルリン大会の公式記録映画「オリンピア」の第一部。この大会で初めて実施された聖火リレーや、開会式、各種陸上競技が映される。スポーツをスペクタクルに捉えるための、大がかりな移動撮影や高速度撮影など、当時の先端的な映像表現が評価され、1938年のヴェネツィア国際映画祭で最高賞を獲得。映画史上に残るスポーツ映画の金字塔となった反面、プロパガンダに活用された映画として、監督を務めたレニ・リーフェンシュタールと共に、常に評価が分かれる。



レニ・リーフェンシュタール

『美の祭典』 「オリンピア」第二部

Leni RIEFENSTAHL
Olympia Part Two: Festival of Beauty

◎9.19[Thu] 16:30 ◎9.25[Wed] 18:15

1938 / 97 min
言語:英語 Language: English
字幕:日本語 Subtitles: Japanese

1936年にナチス政権下のドイツで開催された夏季オリンピック、ベルリン大会の公式記録映画「オリンピア」の第二部。選手村での選手たちのリラックスした様子や、水泳競技などが中心に描かれるが、第一部の「民族の祭典」と同様に、その映像表現から充実した制作体制と潤沢な予算を伺わせる。美的表現を追求したリーフェンシュタールは、フィルムを反転させた現象や、同じ映像素材の使い回し、競技の再撮影も積極的に行っている。本作は、素朴な記録のように見える表現が、いかに演出され、我々にイメージを植え付け、歴史に残されていくかという問題を孕んでいる。



戸田ひかる

『愛と法』

TODA Hikaru
Of Love & Law

◎9.22[Sun] 11:00※ ◎9.24[Tue] 13:30

2017 / 94 min / 配給:東風
言語:日本語 Language: Japanese
字幕:英語 Subtitles: English

大阪で法律事務所を営む南和行(カズ)と吉田昌史(フミ)は、公私ともにパートナーの弁護士夫妻(ふうふ)。セクシュアル・マイノリティ、養護が必要な子供たち、「君が代」斉唱の際に席を立たなかったことで処分された学校教諭、性器をモチーフにした作品が罪に問われた女性アーティスト、無戸籍の男性。日本中の「当たり前」から外れてしまった人々が、二人の元へやってくる。そんなカズとフミが暮らす家にある日一人の少年が居候として加わる。本作では、血縁関係や、法的根拠が無くとも、人と人との間に生じる情が取り上げられる。個人の自由や、家族のあり方に対し、決して主義主張を押し付けることなく、隅々までやさしく描く。



© Nannou Films